

自然と文化科 共通講座・班別活動 活動記録

日時	2025年9月5日(金) 10:00~14:30	担当者
場所	午前 福島区民センター・ホール	文・写真: 阪上正方
備考	参加者数62名(1班14名、2班17名、3班16名、4班15名) 天候: 曇り時々雨	

午前中は研究部共通講座で京都大学名誉教授・社会健康医学福祉研究会所長の小泉昭夫先生による「私たちの飲み水は安全か?..予防と対策について」と題する講演があった。

初めに有機フッ素化合物 PFAS の汚染についての話があった。PFAS は半導体や EV からフライパンのコーティングまで幅広い用途のある化学物質であるが、自然界で分解されにくく、水や地中に長期間残る。またその毒性が懸念されており、PFAS の中でも PFOA、PFOS と呼ばれるものは体内に取り込むと抗体反応の低下、脂質異常症、

腎臓がんリスクの増加などを引き起こす恐れがあるという。政府は 2021 年までに製造や輸入を全面禁止した。欧州では規制が強化され、イタリアの裁判所で化学品メーカー幹部や、その親会社である日本企業から派遣された邦人が有罪判決を受けたという。

また大阪府にある大企業と、周辺に居住する地域住民や自治体とのやりとりについて、その経過を批判的に話された。問題の解決のため、住民への開示を前提とした汚染源対策、企業による毒性情報の収集と蓄積、質の高い疫学的健康影響調査、住民に寄り添う医療の提供、農産物の汚染実態を明確にし土壌汚染対策法の対象とすることを提案された。

私たちが普段何気なく摂取している水や食物に毒性のある物質が含まれ、その蓄積により様々な病気や障害が引き起こされる現実が身近にあることを知らされ、調査データの重要性を認識し、常に関心を持って問題に対応しなければならないと感じた。

午後は班別活動であった。

1 班、4 班は自由行動

3 班は台風一過、鉄板焼きで暑気払い懇親会

2 班は西梅田で懇親会があった。食事場所近くのビル 1 階のスペースで「私たちの SDGs 2025 繊維製品の循環をめざして」というイベントがあったので、少し見学した。繊維製品の廃棄から生まれる環境負荷の低減に向けて、関西で学ぶ大学生と研究者が連携し結成したチームによる、繊維製品の循環をテーマにしたものであった。

食事までの待ち時間、ここでクラフトなどを楽しんだ。

